

2020年3月30日付 韓国環境部プレスリリース

江原道の野生イノシシから ASF ウイルス検出（野生イノシシ 461-467 例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1361135&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

□環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は3月28日に江原道（カンウォンド）華川郡（ファチョンゲン）上西面（サンソミョン）および華川邑（ファチョンウプ）広域フェンス内で発見されたイノシシ死体7個体から ASF ウイルスが検出されたと3月30日明らかにした。

□国立環境科学院は3月30日死体7個体から ASF ウイルスを検出したことを関係機関に通知した。これで華川郡（ファチョンゲン）184件、漣川郡（ヨンチョンゲン）178件、坡州市（パジュシ）82件、鉄原郡（チョルウォンゲン）23件、合計467件のイノシシ ASF 陽性事例となった。

○野生イノシシ ASF 標準行動指針により試料採取後現場消毒と共に死体を処理した。

□国立環境科学院は「今回陽性になった死体は全て環境部捜索チームが山を捜索中に発見したもので、他にも感染個体が存在するのかわ確認するため、捜索を通じて持続的に確認する計画である」と明らかにした。

以上